

# Grinnell College 授業報告

北川 幸子 (2006年1月22日作成)

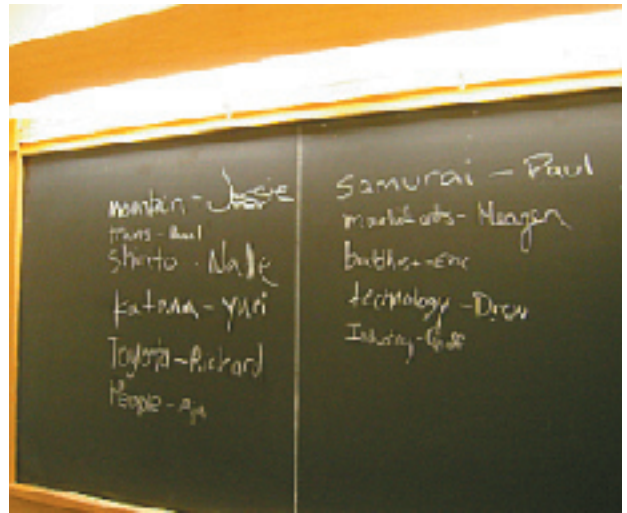


写真 1

## 1. Grinnell college について

アメリカ中西部アイオワ州にある、全寮制の小さな大学です。リベラルアーツという教育理念のもと、専門分野だけでなく、幅広い分野の知識を持った人材の育成、教育が行われています。三年次からは専攻を選択するようになっていますが、1, 2年生の間は文系・理系・芸術・体育、様々な分野の授業を履修することが課されています。そのため、学生たちは課題に追われる忙しい学生生活を送っています。

## 2. Chinese and Japanese department について

私の所属するこの学科には中国語・中国文学の教員が3名、日本語・日本文学の教員が3名います。中国研究は他の語学と同様、Chinese house (中国人留学生と中国語を履修している学生が共同生活をするための家) もありますし、専攻にもできますが、日本研究は今のところ、Independent major という形でしか専攻にすることができません。ただ、熱心に日本語、日本文化を学ぶ学生も多く、毎年たくさんの学生が交換留学生として日本へ留学しています。

## 3. 早稲田インターンの位置づけ

3名の教員のうち、早稲田インターン以外の教員は日本文学が専門であるため、早稲田インターンには主に日本語の授業へのサポートが求められています。それ以外では日本語学科(と便宜上呼びます)で行うイベントなどの企画、サポートなどです。

肩書きとしては「Visiting instructor (客員講師)」ということになっていますので、学科内の業務だけでなく、全教職員の会議や大学レベルのイベント等への参加も求められます。

その際にはある程度の英語力も必要となってきます。(早稲田インターンは毎学期、授業を1コース無料で履修できることになっていますが、第二外国語としての英語の授業はありません)

## 4. 担当授業

授業としては、一週間に7コマから9コマ程度を担当します。基本的にはco-teaching(team teaching)ですが、一人で1つのコースを担当することもあります。

先学期担当した授業を例に挙げます。

- ・ 1st year Japanese 2section × 週二日
- ・ 2nd year Japanese 1section × 週一日
- ・ Independent Study JLPT 対策コース 週3コマ
- ・ Japanese Table 週一回
- ・ Japanese Lab の運営
- ・ Office Hour 週2コマ

一年生の日本語は『なかま』、二年生の日本語は『げんき』を使っています。Independent Study というのは上級生のためのコースで、例えば小説を精読したり、何かテーマを決めて研究を行ったりと、学生が自分自身でコースデザインしたものを自立的に進めていくというものです。

Japanese Table というのは週に一度、日本語を履修している学生と日本語の教員が同じテーブルで学食を食べる、というもので、どの語学も週に一度行っています。その言語を母語とする留学生なども参加して、楽しい雰囲気になっています。

それから、日本語を履修している学生がチューターのいる



写真 2



写真 3

部屋で自習（宿題）ができるよう、週3回「日本語ラボ」（夜7時～10時）というのを運営しています。上級レベルの学生と、日本からの留学生がペアになってチューターをやってくれています。

## 5. 先学期の授業について

授業で試みたことなどを簡条書きで少し挙げます。

### (1) 1st year Japanese

- ・ 日本をイメージする言葉を最初の授業で各自黒板に書いてもらう（コース終了時に同じことを聞き、比較したいと考えています）→写真(1)
- ・ おにぎりワークショップ→写真(2)
- ・ 調理実習／日本語でレシピ作り（学生の得意料理紹介）
- ・ 年賀状作り（芋版、切り絵、筆ペンなどを用いて）→写真(3)

### (2) 2nd year Japanese

- ・ 漢字マッピング（連想した漢字を次々につなげて図にする）
- ・ 四コママンガの翻訳（サザエさんの英語版を日本語に訳させる）
- ・ 学習ストラテジーの情報交換

## 6. 今学期の予定

今学期は日本語学科や大学で行う関連イベントがいくつかあります。まず二月には、日本のフェミニズム研究をされている方々が全米ツアーでこの大学を訪問されます。その様子はドキュメンタリーフィルムにもされるようで、日本語学科としても何か授業訪問以外に企画したいと考えています。

それから二月下旬には、大分県の竹箆アーティストの方を招いてのギャラリー展示が行われます（学内ギャラリーに

て）。それに合わせて琴の演奏や生け花の展示も企画されています。日本語学科では、地域の方を招いて行われるイベントの運営をまかされているのですが、同じ竹という素材の竹皮を使ったおにぎり作りをやろうかなと考えています。その他にも折り紙や切り絵など、日本語の学生主体でいくつかのワークショップを開く予定です。

それから、九月には広島から4人の被爆者の方を招いて講演をして頂くことになっています。原爆の写真パネルを持って平和マーチを行ったり、大学全体に呼びかけて千羽鶴を作ったりなど、企画しています。

日本語の授業に関しては、1年生はこれまでどおり、楽しく、厳しく、教えていけたらいいと考えています。今学期は漢字の指導が始まりますので、まずは書初めで新年の抱負を書いてもらい、漢字に面白さを見出してもらえればいいなと思っています。それから日本語を話されるアメリカ人の方を招いて、学習ストラテジーについて少しお話をしてもらおうかなと考えています。

今学期から初めて担当する3年生の日本語では、なにか能動的な活動をさせたいと考え、今回実験的に質問紙調査をゴールにした授業を行ってみようと考えています。土地柄、政治的に保守的な学生が多く、情報に対しても疎いところがあるように思いますので、学生と一緒にメディアを斜めから見る練習、自分の持っている先入観やステレオタイプを意識、自覚する練習、自分の手で情報を得る経験など、できたらいいのではないかと考えています。またご報告できればと思います。